

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。まだ立っていない人もいらっしゃるんですけども、ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、議会会派新政策研究会、牟田の一般質問を開始させていただきます。

まずは、ちょっと受け売りですけども、プロフェッショナル、プロとアマの大きな違いは何か。プロとアマの大きな違いですね。プロは結果がすべてであります。野球選手しかりすべての選手、プロは結果がすべてであります。アマチュアはその過程が大事なわけですね。どれだけ頑張った、その過程が大事と、今までプロとアマの大きな違いがあるスポーツは何かと、これは一般的に言われているんですけども、相撲とゴルフ、これがプロとアマの大きな乖離があると言われておりました。そういう中で、先日、石川遼君、15歳のアマチュアのゴルファー、八ニカミ王子が優勝されました。並みいるプロを抑えて優勝されました。これは本当にびっくりします。逆に言えば、プロがふがいないというふうにも言えます。結果を出さなきゃならないプロがふがいないと、そのゴルフにしても数値というのがきちんと出ます。アマチュアには報奨とか賞金は出ません。しかし、プロには報奨、賞金が出ます。繰り返しになりますけれども、アマチュアは結果も大事かもしれないけど、その過程を重んじると、プロは結果がすべてであります。

以上を踏まえ、観光についての質問を問うていきたいと思っております。

市長の佐賀のがばいばあちゃんを初めとする観光への力の入れよう、そして、その結果というのは十分理解できるものでございます。そしてまた、市民も肌でそれを感じられていることだと思えます。

では、その数値というのはどうなのか。先日、福祉文教委員会で吉原議員が聞かれた分ですけれども、入湯税から割り出せる宿泊者数、武雄市の宿泊者数はどうかというのが出ます。もちろん入湯税が徴収できるだけの対象の人の数値でありますけれども、平成17年度で入湯税をいただいた実績は約15万人、18年度はまだ決算が出ていませんので、当初予算の計画ですけれども、14万人、17年度は実績で15万人、18年度計画は14万人、これはもう合併前と合併後ですが、山内、北方町の数値も踏まえての数字であります。平成19年度当初予算、本年度当初予算で12万7,000人、だんだん計画はしりすぼみになってきているわけですね。

まず最初の質問ですけども、観光客数が計画より 観光客数というか、入湯税が計画より目減りしている理由は何かと、これがまず1点目。

2点目、発表宿泊者数28万人、発表宿泊者数と大きな乖離があります。これはなぜか、この2点を最初にお伺いしていきたいと思えます。よろしくお願いします。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

おはようございます。お答えしたいと思います。

議員お尋ねの観光動態調査の数だと思いますが、うちのほうでは、宿泊と、それから日帰りがありますが、宿泊については、各施設、宿泊の施設、旅館、ホテルでございますが、そこからの調査により数値を出している。それから、日帰りについては宿泊施設のほかに民間の観光施設がございます。温泉とか、あるいはメルヘン村、それから、市の施設では、大楠公園、それから保養村、そこら辺の数値、利用者数を加算して推計をしているという状況でございます。

それから、観光客数と入湯税の関係でございますが、先ほど言われましたように、17年度決算でいきますと、入湯税の総額が約30,270千円、そのうち宿泊の分が22,557,500円ということで、これについては、先ほどありましたように、人数でいたしますと約15万900人程度、それから、日帰りについては7,713千円で、人数にしますと15万4,262人という数字になります。

そこで、入湯税と、それから宿泊者の数についてですが、17年度の数字でいきますと、うちのほうが報告した数字が、宿泊客が約30万人ということになっております。そういうことで、入湯税の数との差があるわけですが、その中で対象外となりますビジネスとか、それから、入湯税を取らない宿泊の施設もでございます。それから、修学旅行等、それから、子供の分が対象外でございますので、そこら辺で数字の誤差が出ているという状況でございます。

いずれにしても、宿泊者の数については平成8年をピークに年々減少の傾向になっているという状況でございます。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

幾つかの施設から数値をいただいて推計していると。でも基本的に15万人も変わらないから、大本営発表だと思います。これも必要、ある面必要だと思います。やっぱりそういう意識を鼓舞しなきゃいけない。市民の意識も鼓舞しなきゃいけないというところで必要かもしれません。でも、ここでこだわりたいのは、やはり実数はきちんと把握しとかなきゃいけないというところであります。ここで先ほどのプロとアマの差が出てくる。プロとアマの違いというところですね。職員も報酬をもらっている限りプロなんですよね。プロとして働かなきゃいけない。実際、観光協会のほうに宿泊者数は何人ですかと聞きに行くと、観光協会もその数値を知らないと、実数ですね。一体何なんだ、両方とも。私も観光協会の理事をしていますけれども、余り携わっていないところ大いに反省しております。やっぱりこの2つが力を合わせてやっていかなきゃいけない。そして、きちんとした数値を把握しとかなきゃいけないと思います。役所の仕事はえてして数値にあらわしにくいというのがあります。しかし、観光客数、宿泊者数というのは把握できるはずですよ。きちんとした数字を出さなきゃいけな

いと思っております。

例えば、Aというイベントを行ったと、Aというイベントをしたと、例えば何百万円かかけて。その効果はどうだったのか、宿泊者数はどうなったのかと。それをきちんと把握していかなきゃいけないと思います。例えば、翌年も同じイベントをして、観光客、宿泊者数は完全にこれだけふえましたよ。だから、実績があってこれだけの予算をつぎ込んでいいんですよと。例えば、がばいばあちゃん、15,000千円の予算をこの議会でつけました。私はこの前、博報堂とかあっちのほうの発表ありましたけど、15,000千円で数十億円の効果が出ているときちんとそういう調査機関が出しているわけですね。それもそうですけれども、1つはきちんと実数を把握しなきゃいけない、そのイベントごと。例えば、さっき言ったAというイベントをやったと、Aというイベントをやって、きちんと実数を把握していなければ翌年また同じ予算がついたと、これで実績どうなのか。多分ふえていますと、数値を出せないわけですね。もうイベントをやったという、さっき言いましたアマチュアの経過のみを重んじると、やっぱりイベントをやったからにはきちんと数値で出さなきゃいけない。役所の中で数値で出せる数少ない分の1つだと思います。

例えば民間だと、さっき言ったAというイベントをやった。だめだったと、翌年もやった、だめだった。やると思いますが、その次、民間で。やらないですよ。数値をきちっと出して、これだけよければというのはやります。でも数値も把握せず、ただイベントのみをやる、結果で数値を出さなきゃいけないプロにあるまじきことだと思います。

先ほど、この後聞くんですけども、この次の質問で言います。例えば、1つの例で言えば時巡り温泉祭、これはもうこの次の分で聞きます。

先ほどの答弁の分で、ちょっともう1回お伺いしたいんですけども、調査されていますというふうなことをおっしゃいましたけれども、どうやって出しているのか、きちんと担当部署が行って調査した。佐賀県内の他市、ほかにおいてもきちんと担当部署がその旅館、宿泊関係者に行って数値をいただく。例えば、佐賀県外のどこどこから何人、外国客さん、国別に何人というのをきちんと把握されています。多分武雄あいまいな数字しかないと思います。きちんと数値を把握して、なぜこれが必要かと。

今例えば、武雄が前言っていた海外からの観光客誘致もそうです。数値がわかっていなきゃ、どれくらいふえたのかわからないじゃないですか。きちんと実数把握をしなきゃいけない。この質問を出したところ、聞いたところによれば、担当課は観光協会のほうにどれくらいですかと聞きに行ったら、観光協会に聞きに行ったというのを、これ漏れ聞いたんですけども、そんなのも市役所は把握していないのか。逆にいえば、観光協会も把握していないということです。両方とも把握していなかった。今までいかにそういうきちんとした数字を出して実績というのをいせなかった。私自身も反省しております。今後武雄でも、さっき言いました海外からのお客がふえることだと思います。実際先日台湾からの、何ですか、旅行

のコンサルというんですか、何かちょっと忘れましたが、そういう方が見て、武雄に見えられたと。そういうふうなことを、きちんとした数値の把握が必要だと思います。

今のを踏まえて、時巡り温泉祭についてはこの後聞きますけれども、調査はどのように今後行おうと思っているのか。その点に対してお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

質問を承りながらちょっと呆然としました。私も深く反省するところであります。今後は、観光協会、これ事務局長も市の職員を派遣しておりますので、そういう意味で観光協会と市のほうで調査に入りたいというふうに思っております。責任ある数字を上げていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今後ですね、やっぱり先ほど言ったプロとアマの経過じゃなくて、やっぱり実数を把握しなきゃいけないというところが大事だと思います。

先ほど、後で聞きますと言いましたのは、例えば時巡り温泉祭です。私が多分産業委員長をやっていたころですかね、その計画が出てきて、そのときにその計画を見て突っ返したことがあります、こういうのは認められんじゃないですかと。私が言ったのは、もう温泉街に特化している、市全体のことは書いていない。当時3,000千円の予算をかけたのにパンフレットとかなんとかも温泉街のことしか書いていない。もちろん温泉街のことだけでもいいかもしれないけど、私は市全体の観光を考えてこういうマップぐらい全体のやつをつけたらどうですかと、そういうことを言って返した覚えがございます。そしたら慌てて、ちょっと内容を変えてマップが1枚挟まってきて、それは通ったんですけれども、この時巡り温泉祭、当初は3,000千円、途中2,000千円、ちょっと減額されたと思うんですけれども、観光にかかる数値としては、金額としては大きいものだと思います。数値でいえば、がばいばあちゃんを誘致したときの5分の1であります。がばいばあちゃんのときの効果の5分の1ぐらい上げていなきゃいけない。それちょっと極端な例ですけども、その時巡り温泉祭、実際どの程度効果があっているのか、実数で答えていただきたいと思います、わかるように。

議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

温泉祭につきましては、平成15年から3年間県の焔博の補助金をもらいまして、これにつ

いては市が事務局を持ちまして実施をしております。その後、昨年の18年度からは行政の分から事務局を離しまして、民間主体で実行委員会をつくって開催をされています。

そこで、お尋ねの実数でございますが、17年度の集客数が1万5,556名ということで、いろんなプログラムがございますが、有料の分がそのうちに1,256名、それから無料の分が1万4,300人という数字でございます。

それから、昨年の18年度については、集客数が若干落ちまして1万3,000人と、それから有料の分が、これは若干上がりまして1,938名、それから無料の分が1万1,000人ということでございます。

平成19年度については、今から実行委員会の中でプログラムの検討等が始まっていくわけでございますが、基本的には昨年以上の効果を出すようにする必要があるというふうに考えています。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

17年、1万5,556ときちんとした数字を出しております。先ほど言いましたように、どうやって調べたかというのはわかりませんが、私が見る限りは、私は行っています、このイベント行っていますけれども、そんな極端にふえたと思いません。実際減っていると。平成15年度からやられているということですけども、焱の博補助金でやったと。この補助金というのはくせ者なんですね。補助金でやるから効果出さんでもとにかく使えという気持ちがあるかもしれません。でも、きちんとその数、我々民間で3,000千円あったらいろいろできますよ。昨年は実数が減ったと。

じゃあ、ちょっともう1回繰り返しますけども、民間で今みたいな数字で同じことを繰り返してやると思うか。これを質問します。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まずやめるか、やるにしても大幅にリニューアルをして次にかけるか、どちらかだと思います。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

これは、あと最後の分で頑張る地方応援プログラムでちょっと言おうかなと思っていたところなんですけれども、先日の韓国の派遣事業、あれもちょっと見直すということだけでも、こういう、今1つの例で言っているんですよ。時巡り温泉祭てわかりやすいから。こういう

のこそ、きちんともう1回精査しなきゃいけないと、効果が上がっているのかどうかと、いうふうに私は思っております。

市長は今、もう1度見直すという形でありますけども、今まで見たところ、市長はどちらかというと、ここはちょっと失礼な言い方かもしれませんが、執政者というよりもイベント屋みたいな感じで効果を上げていらっしゃると思います。だから、そういう実績ある人がどんどんやって、忙しいけどあと1つ2つ、忙しかぎ副市長も2人おんしゃあけんが、もうどんどんやって実績を上げていくと、あと、やっぱり観光協会との連携ですね。役所のほうからきちんと出していると。やっぱり見直すべきところは見直す、さっきの例で言いました韓国派遣の分だけ見直すじゃなくて、そういうのもきちんと見直してやらなきゃいかん。民間じゃやりませんよ、多分、こんな金かけて。繰り返し言いますけど、わかりやすい1つの例で言っております。ほかにもいろいろあると思うんですよ。だから、冒頭言いました実数を出さなきゃいけない。過程よりも結果を出さなきゃいけない。その実数のわかりやすいやつ1つだと思っておりますので、ぜひ実数を把握して事業精査、もしくは本当に効果がある、費用対効果があるイベントに成長して行ってほしいと思っております。今の件、市長どうですか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

時巡り温泉祭においては、行政的なことを言うと、補助金を2,000千円我々交付してはいますが、実行委員長がまた別におんさあわけですね。そういったことで、少なくとも私が見た限り、意思命令系統がはっきりしとらんわけですね。基本的には、私がやるかどうかは別にして、補助金を出す側がきちんとやっぱり見ていく必要があるというふうに考えております。そういう意味では、実行委員会の方がお許しいただければ私も関与しようと思っております。補助金を出す責任者として関与をしたいというふうに思っております。ただ、だめと言われたらどがんしゅうかにゃと思っておりますけれども、その上でこれ考えたいのは、ことし特にT A I Z O + T A K E Oを11月にやります。11月にやる時点でこの時巡り温泉祭をうまく組み合わせることによって、ことしは長崎がさるくで非常に脚光を浴びて、それが通年行事になるということに深く刺激をされて、ことしは時巡り温泉祭もある意味フォトめぐりになればいいなというふうに考えております。これは私が決められる話じゃありませんので、そういったことを投げかけていきたいというふうに考えております。

去年私も時巡り温泉祭に出て、正直言って選択と集中がうまくいっていないなという印象は受けております。お客さんの1人が、時巡り温泉祭に行きながら、「あれ、時巡り温泉祭どこですか」と私に質問されたことを非常に私自身も反省しながら聞いた記憶がありますので、そうならないようにことしはしていきたいというふうに思っております。そういった意

味で働きかけてまいります。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

効果がある分でやっていただきたいというのがやっぱり願いであります。それも1つの地区に特化するんじゃなくて、全体的に大きな予算をかければですね、Aというところに大きな予算をかければ、じゃあうちもBというところもやってくれよと、周辺部もやってくれよという声が出るかもしれません。そういうことも踏まえて、先ほど言いました実数を把握して、アマチュアじゃないんだから結果を出さなきゃいけない。

そしてもう1点述べさせていただければ、こういうのは当初予算が出る前に、市長初め執行部の皆さん、きちんとすべき精査を怠ったんじゃないかと思うんですよ。

先ほど例で出しました韓国のツアーですね。それだけじゃなくて、ほかのところも全部精査を怠っているんじゃないかというふうな形があるんで、そういうところで指摘して、再度我々もともに考えながらやっていきたいと思います。

次の観光の点にお伺いですが、細かいところかもしれませんが、先日、島田洋七さんの講演会がありました。私も出席させていただきましたけれども、数にびっくりしましたね。私も文化会館のいろんなイベントとか出ていますけれども、びっくりするぐらい多かったです。大ホールに入れない方は小ホールに回っていただいて、小ホールで流すくらい、私が知っている限り初めてあんな多かったんじゃないですか。さきに行われた服部先生の講演会、あのときも、わあ多さと思うたわけですけど、それよりももう4割、5割増しぐらいで来ていたような感じを受けました。

それで、例えば、先日これも「地震カミナリ火事オヤジ」だったですかね。そのときも我々消防団もチケットとかなんとかで大分あれしてやったんですけど、それよりもやっぱり全然多かったです。

その中で、ここからがメインですけど、G A B B A（がば）と、武雄のがばいばあちゃんがデビューされました。もちろん知っている方もいらっしゃるけど、知っている方が多いとは思いますが、私もびっくりしました。あの乗り、受け方、すばらしかったと思います。平均年齢が74歳と、74歳ですね。多分我々オリンピック以降のコーラとインスタントとレンジで育った年代はそこまで頑張れるかどうかちょっと不安でもありますけど、本当元気で頑張られています。昭和50年代に「おやじの海」という演歌でデビューされたおじさんが、当時は、私覚えているんですけど、47歳でデビューしたということで大きな話題になったことを覚えています。47歳で新人デビューであれだけ騒がれたら、74歳のグループで出たというぎ、これはニュースになると思います。インパクトはそれより数段あると思うんですね。

ここで伺いですが、まず1点目、その7人の武雄のがばいばあちゃんを今後どのように武雄の観光に結びつけようと思われているのか、これがまず1点目。

2点目、レモングラスですね。市長が再三この議会の中でレモングラスという言葉が使われています。私が聞いたところ、レモングラスで、我々関係者はよく知っているわけですね。不案内な方も多いです。どがんとねという方も多分、ひょっとすると大半の方がそういうふうに思っているかもしれません。

これはちょっとまた余談になりますが、先日、温泉ハイツがレモングラスゼリーということで作られたんですけれども、先日いただきました。いただいて、レモングラスゼリーという正直期待せずに食べたら、ばらいうまかったです。びっくりすごとうまかったです。多分これはですね、私ただで太っているわけじゃなくて、この体にするまでお金がかかっているんですよ。いろいろおいしいものを食べています。多分舌も肥えて、体も太っているけど、舌も肥えていると思います。ここまで結構金をかけました。でも、うまかった。これは多分都市圏でも通じる味だと思います。そのレモングラスなんですけれども、不案内な方が多いと思います。

今1点目、G A B B A (がば)をどうやって観光と結びつけるのか。2点目、そのレモングラスをどのように特産、観光に結びつけるのか。

ちょっとまた余談になりますが、例えば、新幹線問題が話題になっています。新幹線、ちょっとかけ離れた感じもするかもしれませんが、昭和40年代まだ福岡まで、博多まで新幹線が来てなかったとき、博多の明太子というのは博多及び九州の半径100キロもないぐらいのただの博多だけの特産品だったわけですね。新幹線が通って、それが全国区になったわけですよ、明太子というのは。それまでは、その地域だけだったんですね。それでがばっと市場が広がったと、明太子が。もう1つ、東北新幹線、仙台の牛タン、知っていますよね。あれも最初は仙台の一部だけでやっていた。ところが、東北新幹線が通って接続して、それが全国に広まった。今何かと、さつま揚げですよ。だから、ずうっと新幹線が通ったら、その地域の特産品というのは全国区になってくるんですね。だから、新幹線はひょっとすると、何年後かわからないけど、今のうちに力を入れとかなければ、私はレモングラスだけじゃないと、いろんな特産品があります。うちは酒屋やっけんが余りレモングラス、レモングラスというてもあいかもしれんばってん、いろんな方法があると思います。だから、今のうちに特産品を育てていって、新幹線が遠い将来か近い将来か通ったときに、それを全国区のほうに、ちょっと今夢みたいいなことを言っていますよね。さつま揚げ、明太子、仙台の牛タン、今みんな知っているけど、それが通るまではあんまり知らなかった。だから、そのレモングラスというのに市長が力を入れられるんで、そのビジョンを聞きたいわけですね。この2点、G A B B A (がば)とそのレモングラスのビジョンをお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず、G A B B A（がば）の答弁に入ります前に、一言ちょっとおわびを申し上げたいと思います。先日の武雄市文化会館で入れなかった方、200名払い戻し、なおかつ御不満をいただいた方いらっしゃいました、入れないということで。そして、車が満ぱいになって地域住民の方に御迷惑をおかけしたことをおわびしたいというふうに思っております。

その上で答弁に入りたいと思いますけれども、今後G A B B A（がば）をどうするのかといったことについては、実はきのうテレビ各局で報道をされ、きょうも新聞に数社載っております。思った以上の反響、というよりは思ったとおりの反応であります。入念に入念に両副市長、あるいは関係者の人たちと、これはかなり練りに練ってここまで来ましたので、やっぱり作戦と企画がうまくいけばこういうふうになるという証左だというふうに思っております。

その上で私は、10月か11月のC D化に向けてみずから動いていきたいと思っております。幸いにして、その当日の映像を私自身残しておりますので、これをもってレコード各社に売り込みに参ろうと。もう実は、何社かからはぜひ自分のところを出したいという要望はもう来ております。おばあちゃんたちの健康状態も含めて、それと余り無理をさせられませんので、そういったことも考えて安全・安心なC Dデビューを秋に果たしていきたいというふうに思っております。

その間、老人ホームであったりとか、私は刑務所の慰問もあっていいと思います。東野圭吾さんの「手紙」という小説がありました。あの中で刑務所の慰問のところがありました。あれは若いバンドの方が刑務所に慰問することによって非常によかったという話がありました。あるいは、保育園とか幼稚園に行ったり、そういったことで、まず地元にどんどん出たごうと、それと、出ていきながら芸をまた磨いていただこうというふうに考えております。いずれにしても、その両面で展開をしていく、これが基本的な姿勢であります。

それともう1つが、これ基本的に、私はG A B B A（がば）は、もう公の存在だというふうに思っております。武雄市の観光P R並びに、本当に高齢者の方々を、特に高齢者の方々を勇気づける、自信を持っていただくという意味では、ある意味経済学で言うところの公共財だと思っておりますので、これは佐賀のがばいばあちゃん課で日程調整だったり、あるいはプロデュースしたりということを当分の間やっていきたいというふうに考えております。

次のレモングラスであります。

レモングラスについては、先ほど新幹線と特産品の話が出ました。これは炯眼だと思います。そうなる前に我々はもう特産品にしとかんぱいかんわけですね。そういう意味で、これ

レモングラスの商品化をもう図っていこうというふうに考えております。

今考えていますのは、これからどんどん野菜を、これから食育等々で広めようと思っておりますので、例えば、レモングラスドレッシングであります。それとか、あるいはレモングラスまくらであったりとか、レモングラスまくらばしとっぎんた、朝しゃきと起きっわけですね。それとか、牟田酒造でぜひつくってほしいのは、レモングラス焼酎であります。ということで、商品化をどんどん仕掛けていって、それが結果的に数年後の新幹線に合わせて商品化を図っていく、そのときにレモングラスの説明とかをやっていければいいなと思っております。

それと、先ほどおっしゃったように、楼門朝市であります。楼門朝市で今レモングラスティーであったりレモングラスを売ったりしています。そういう意味で、この楼門朝市をうまく活用したいと思えます。もう数百人の方々が毎週お見えでありますので、そこでのPRを図っていききたいというふうに考えております。

最後になりますけれども、もう1つ私が夢なのは、富良野はラベンダーで有名になりました。そういう意味で富良野は、富良野の中心地は全然だめなわけですね、実は。あれは五郎さんの家とか、もうかなり周辺部で今盛り上がっていますので、そういう意味で今若木と、あとこれは中野になりますけれども、非常に御尽力、御苦勞をされて振興協議会、そして、地区の皆さんたちが御苦勞されてレモングラス畑をいち早くやっていただいております。そういう意味で、周辺部の観光の目玉としてレモングラスを育てていききたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

新幹線の説明をすつときはこがん言わんばいかんわけですね。

それともう1つは、がばいばあちゃん、ぜひ紅白を目指して、行く年来る年は楼門がバックにアップで出るような形で頑張っていたいただきたいと思えます。

やっぱり観光と結びつけなきゃいけないわけですよ。がばいばあちゃんですね、話題を観光に結びつける。そして、数値をきちんと出す、この3点セットが必要だと思います。今特産品、そして、G A B B A（がば）の件を聞きました。

今回の質問のメインは、実数をきちんと把握した上で、その結果、調査、もういわゆる俗に言うマーケティングですよ。次につなげるマーケティングをきちんとやんなきゃいけないというところを提案したいと思えます。

今市長がおっしゃった、いろんな部分に結びつけていくというふうなことを観光で言われていましたけれども、きょうからもまたいろんな口ケが来ているというふうなことをお伺いしておりますけれども、どうでしょうか、市長、また何か今後のT A I Z O展も先ほどちょ

っと触れられましたけれども、今後の観光についての大まかなビジョンがあれば、観光をどのように進めようとしているのか、これを観光のところの最後にお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

武雄は湯布院にはなれません。ということは、どういうことかということ、もう基本的にああいう湯布院はハードもソフトももう完成の域に達しておわけですね。しかし、武雄の魅力は湯布院にできないことがある。それは何かということ、一般の方々の例えば特にとりわけG A B B A（がば）を中心とするおばあちゃんの力であります。そういったことを、武雄に来れば元気な高齢者に会えると、そこでつくったお漬物とか野菜を出すと、そういうふうな観光の展開を、これは周辺部観光なんですね、要は。だから、そういうのをルート作成とか、あるいはそういったことで全面的な支援をしていきたいというふうに考えております。

さきの議会で申し上げましたがばいの88カ所めぐりもそうかもしれません。それで今人気はかなり高まっております三樹参りもそうかもしれません。だから、健康、元気を意識して、歩く、さるくということを中心にしていきたいというふうに考えております。

それと、幸いなことに武雄は今全国で一番注目が集まっているそうです。今集まっているときに次々に仕掛けをしていくことが大事だというふうに思っております。ただし、さきの議会でもある議員から言われましたけれども、同じときに2つ、3つというのは、これはやっぱり無理なわけですね。やっぱり同じときは1つに専念するということが大事だと思いますので、まず11月のT A I Z O + T A K E O展、そして、島田洋七さんが講演会の場で述べられましたけれども、来年1月、2月、3月の「佐賀のがばいばあちゃん2」、これは武雄をメインロケ地にするということをご公言されておりますので、その全面的な支援。それと、これもさきの議会で申し上げましたけれども、東京駅が2011年に改築になります。それに合わせるか前倒しにするかは別にして、いずれかのタイミングで唐津市と、これは唐津市長にもお話をしておりますけれども、辰野金吾さんが生まれた唐津市と楼門がある武雄市、そして東京駅を所有するJR東日本、国土交通省、そして、辰野金吾さんの文献等が最も残っております東京大学と組んで大回顧展を行いたいというふうに考えて思います。ですので、基本的な私の観光戦略は、地道に一般の方、市民の方々が自分たちももてなしをするんだという層があって、その上にイベントを効果的に打っていくと。しかも、それも議員がおっしゃったように、単に役目済ましのものでなくて、きちんと来ていただくと、来ていただいて来年もしてくれと観光客の方から言ってもらえるような集客にしたいと思います。今は湯布院には負けていますけれども、4年後には勝ちたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

力強い言葉をもらいましたけども、ぜひですね、市だけ突っ走ってもだめだと思います。市長だけ突っ走ってもだめだと。やはり観光協会と力を合わせて、そして、さっき言ったアマチュアじゃないんだから結果を出していただきたいと思います。

それでは、次は2番の教育であります。

これは今まで言ったことの繰り返しの質問になるかもしれませんが。ただし、これは繰り返しになりますけれども、私が何度も何度もこの場で質問して言ったことであります。

今回、教育長がかわられなければこの質問は多分しなかったと思うんですけども、今度教育長がかわられました。教育長がかわったんで、今まで私が質問をして答弁いただいて、まだまだどうかなと疑問に感じたところを新しい教育長の意見をお伺いしたいと思いますけれども、まず第1点目、これはもうずっと言っています。県立中学が一緒になった中学をつくると言ったときからずっと言い続けています。私は県立中学校は賛成でも反対でもありません。いいのをつくっていただければそれでいい。ただし、その子供たちの入学方法、選抜方法が抽せんというところが私はどうしても納得がいかなかった。これはさきの議会でも、何年か前の議会でも多分きょうの質問で3回目だと思います。どうしても抽せんというのが納得いかない。

例えば、先生たちも教員免許試験というのがありますよね。教員免許試験に受かった。2次は抽せんだと、これはやっぱり納得いかないでしょう。我々議員、選挙に当選した。でも、その後は抽せんですよと、納得いかんでしょう、やっぱり。ただし、今教員免許とか議員というのは、もしだめだったら次があるわけですね。翌年、我々だったら4年後。子供たちは6年生の時点、中学生になる時点で、そこで抽せんに漏れたら翌年挑戦するというのはできませんわけですね。違うわけですよ。大学受験は浪人という言葉があります。受験に失敗したら浪人します。でも、翌年があるわけですね。私も浪人しました。翌年があります。子供たちはないと。子供たちの将来を抽せん決めていいのかと。これは何度もここで言っております。そのたびに教育長の答弁はいたし方なしと。いいのか、これだと思います。

ただ、これは県立中学校の件ですので、なかなか市の教育委員会の範囲外かもしれませんがけれども、県が集まって教育長会か、いろんな会議があると思います。そういう中で、ぜひ主張していただきたい。議会からもこういう声が上がっています、どげんでしょうかと、こういうことをお願いできないだろうか。

佐賀県は抽せんをやっています、選抜は。抽せんをしていない県もあるわけですね。これはもう教育委員会のほうで調べていただきました。長崎、大分、宮崎、山口、広島、秋田、ちょっと遠い新潟とか、こういうところは抽せんがないというふうに聞いております。抽せんがあるのは福岡、佐賀、岡山、いろんな考え方があると思います。公立中学校だから普遍

的にしなきゃいけない、選抜試験はなじまない、いろんな考え方がありますけれども、これも今まで聞いてきた質問と一緒にです。教育長として子供の将来をくじで決めていいと思うのか。これはもうずっと私は思っていますし、ひょっとすると私に賛同していただける、私の考えに賛同していただける方も、ひょっとすると賛同していただけない方もいらっしゃるかもしれません。しかし、どうしても私は抽せんで子供たちの将来を決めるというのは納得いかない。この辺のところを新教育長にお伺いします。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

考えを申し上げたいと思います。

青陵中学校の適性検査というのがこういう形で出ているわけですが、その適性検査の内容を見ますと、その適性を点数化しないといけないと、1点2点、1点2点と、こういう項目は1点2点、こういう項目は1点2点。小学校6年生の段階でいろんな適性を見たときに、抽せんなしでしようとする場合は、やはり点数のそこで1点刻みのところで切らないといけないという形になろうかと思えます。そうしたときに、その適性を見る検査というのを絶対的な尺度でつくれるという自信はそう出てこないだろうというふうに思うんですね、どんなテストであっても。あるいはその子供のその日の調子によっても違うかもわかりません。そしたら、その12歳の子供たちにその点数で切る、それが望ましいのか、あるいは数点の差はあるけれども、その中で抽せんで人数の関係で入っていただくというのが妥当なのか、これはさっき、あるいはこれまでさきの教育長が述べたことでもありましようし、意見の分かれるところかというふうに思っております。

県の施設でありますので、きちんと私のほうで方向を言えるわけじゃありませんし、御承知の上でお尋ねでありまして、そういう機会をとらえて発言するかということではありますが、それは意見として十分伝えはしたいと思っております。

昨年度の県議会、ちょっと何月か記憶ございませんが、吉野前教育長は未来永劫この方法ではないという発言をされておりますので、県のほうがそれをどういうふうに判断してあるか、今後また私のほうも問うていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

新教育長の言葉をもらいました。ちょっと残念だと思いますね。問うていきたいという言葉だったですね。問うていきたいというか、やっぱり主張していただきたいと、その教育長としてくじはどうなのかと。さっき言いました、子供たちはもう抽せんで漏れたら次はないわけですね。浪人ということができない。高校受験というのは浪人てありますよね。でも、

中学はない。

点数で切るのはいかがという言葉が言われました。子供たちが一生懸命頑張ってあそこに行きたい、目標を定めたい、一生懸命頑張って点数をとった子供、その日調子が悪かったかもしれない子供、そいぎ、一生懸命頑張った子供たちが、その日調子が悪かった子供と平均させるために抽せんもやむなしというふうな形で今聞こえましたけれども、私は個人的にはやっぱりそういうのはきちんとすべきだと思います。その日調子の悪かったけんていうのは、多分社会にとっては通じないですね。例えば、さっきアマチュアという言葉、試合があって、その日調子の悪かったけんがという、やっぱりこれも、プロとアマじゃないですけども結果なんですよ。

教育長は問うていくという形で言われましたけれども、ぜひ教育長として、教育者としてきちんとこれはおかしかっちゃんかかと、子供たちのかわいそうじゃなかとかと、子供たちが一生懸命頑張って、これは大丈夫だったかもしれないというときに、もしくじで落ちたときに子供たちに何と言って慰めるのか、運の悪かったねと言うんですかね。運の悪かったけん仕方なかの、くじに漏れたけんがて、子供たちに、それが教育なのか。やっぱり言いにつかと思うんですよ、子供たちには。運の悪かったねて、頑張ったとけ。

ぜひ教育長には、これはおかしいんじゃないかという、これは私だけの考えかもしれない。途中で言いました、私に賛同してくれる人、賛同してくれない人もいるかもしれない。でも私自身は人の道として抽せんはおかしいと思います。再度教育長の話をお伺いさせていただきます。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

考えとしては、私の考えとは合わないかなというふうに思っております。

1つは、もちろん学校教育法での義務制での入学検査等はしないとかいうのはこれまでも論議されてきたと思いますし、適性があると考えられる志願者が定員以上にいると、県立中学校の創立の趣旨からいけば、適性があると考えられる子供はかなりの幅いますよという形であろうかと思うわけですね、完全な学力検査としてはできないわけですので。そうした場合に、両方出てくると思います。実際に抽せんがだめだったからということで非常に落胆したという話も聞いております。それでも受験に際してはそのあたりまで含めて指導すべきだと思いますし、その12歳の段階で人数のところでは決定するというのは、私は抽せんのほうがいいのかという判断をしてこれまで来ております。

したがって、御意見としては、先ほど申しましたように、県の教育委員会の見解も含めて問うていくという言葉で申し上げたところです。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

非常に残念だったですね。本当にこれで教育者なのかと。教育委員会の中ではこれはどのような話題になって、教育長だけじゃないです。教育委員会の中でどのような話題になって、どのように話が出ているのか、これをお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

5人の教育委員として、この通告いただいてからこれについて協議というのはしておりません。もちろん事務局内では話はしてきたところであります。

したがって、5名の教育委員会の考えというよりも教育長としての考えということでございます。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひ今まで過去どのような教育委員会でこれが議題になったか、今後どのような話になるか、できますれば、その資料を我々もいただければ幸いです。また、教育関係者の方々にも配付していただければ幸いです。

私は、先ほど言いましたように、教育長とはちょっと考え、ちょっとというか、反対のほうの立場で言っております。

こうやって公の議会ですから、お互いの主義を主張するというのはありますけれども、私自身、先ほど言いました、賛同される方、賛同されない方いらっしゃるでしょう、教育長のように。私はそれには断じて反対であります。よろしいでしょうか。

続きまして、2学期制であります。

これも、2学期制、何度も聞いております。2学期制自体が良とも可ともまだまだ判断がつかない時期ではございますけれども、これも新教育長にかわったんで考え方を伺いたしたいと思います。

2学期制自体、山内町、北方町はまだ取り入れていないと、今旧武雄市のところが2学期制を取り入れている。今後どういうふうに進むのかというのも我々はまだ聞いておりません。これも学校長の判断でやるということとなっております。

ここで、前から疑問に思っていたところなんですけれども、明治の教育法施行以来ずっと延々と来ていた3学期制が2学期制にここ数年で変わってきたと、そういう中で、教育という部分で2学期制のメリットを多々いろいろ聞いております。その中で、子供たちの日

数確保、今度の総理の諮問機関のほうですかね、そちらのほうでも、時間が足りないなら土曜日のほうも復活したらどうかというふうな意見も出ています。これは決定でもないですけど、意見が出ているというようなことも漏れ聞きました。

そういう中で、前から言っている子供たちの授業日数確保というのが多分メインだと思います。そして、教職員さんの子供たちを判断する時間、触れ合う時間をふやさなきゃいけないということがメインだと思います。

これは何度も言っていますように、相反するように先生たちの出張時間がふえてきていると、通常の企業、ほかの市の部局じゃ考えられないぐらいの数の出張時間があります。

前の議会で私は2,300時間という言葉を使いましたけれども、2,300時間じゃなくて2,300回ですね。これ2,300回ということは半日おらんでも4時間掛ける2,300だから1万時間ぐらい逆になくなるわけですね、回やったら。時間と私は言いましたけれども、回だったら、その日1日なくなるわけですから。1時間だけおらんやったという出張もあるかもしれません。でも、通常は1時間だけおらんやったという出張は少ないと思います。そんなの出張じゃないですね、研修でもない。

そういう面で、2学期を最大限に生かし得る今後の教育長の考え、もしくはやっぱり2学期制もしました。さっき観光のところで言いました、事業として見直さんぎいかんもんは見直さなきゃいけない。1回やってみておかしいところは戻さなきゃいけない。そういうことをきちんと再考しなきゃいけないというところにあると思います。

幸いなことに、山内町、北方町もまだ2学期制は施行されておられません。ちょうど今そのところだと思います。反対に山内町、北方町が2学期制になってまた出張時間がふえる、なんとかといたら、これは元も子もないわけですね。その辺のところを新教育長の意見をお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

非常に重要な時期になっているということを認識しております。

お話にありましたように、教育再生会議の論を見ますと、案としては2学期制推進のような文言が入っております。この法案にもかかわるところも出てくるかわかりません。しかし、2学期制、3学期制が市内で混在するのはおかしくないかと、その理由、いろいろ考えましたときに、そこまで校長裁量でしていいかというのは私も疑問を持っております。5月から校長との話し合いをしてきましたけれども、差し当たって行事等について問題はなかったという話を聞いております。それから、話にありました授業時間数等々、2学期制のメリットも聞いておりますし、ただ、3月の議会だったでしょうか、聞いておりますのは、保護者や外部の方まで含めた検討会議を開くという結論を聞いておりますので、その準備をしている

というところでございます。幅広く意見を聞いて、そして、再生会議の話し合いとか、非常にスピードが速くなっておりますので、その辺も踏まえて考えていきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

しごくもったもな考えだと思います。ぜひ広く意見を聞いて、前から言っていますように、見直すべき事業は見直すと、続けていく事業は続けるというふうな形できちんとした考えでやっていただきたい。

私、何でもここでいつも出張時間という、保護者の方でも知らんわけですね。牟田君の一般質問を見て初めてそがんだかと知ったよと、そいぎやっぱりおかしかっちなかてなるわけですね。ただ、今どうだというのを投げかけても、我々みたいに資料がないわけですね、保護者は。こういうふうに変わりましたよというのは。子供たちも、例えば、きょう先生出張やったよと言う子供と言わん子供もおんさあと思うです。そういう資料が全くなくて判断されるわけですから、我々はここで言うというのは、そういう材料も1つ与えている部分だと思います。ぜひいろんな幅広い意見を聞いて、よい方向でやっていただきたいと思います。

私は個人的には節目がきちっとしている3学期制、そして、先生たちの出張とかも休みのときに集中させるというふうな形でやっていただければ幸いですけれども、これがまたいろんな意見で2学期制でオーケーだとなったらそれでも構わないと思いますけれども、2学期制になったからといって出張時間とかなんとかがふえたらやっぱり困りますよね。ただでさえ多い、多分平成17年度の資料を持っていますけれども、多くなったというのをまた聞いております。ぜひそこら辺もかんがみて問いかけていただきたいと思います。

では、教育の3点目、道徳教育であります。

道徳教育も、最近はどうも本当に新聞見よってびっくりすつとですよ。がんことの起きよおとと、漫画じゃなか、漫画でも考えられんようなことが起きています。やっぱり道徳教育というのは本当に必要なことだと思います。

道徳教育、じゃあ我々のときはどうだったのか、我々のときは、先生がよく前のほうでAという子がいじめられています、Bという人がこうですといろいろ先生が何々君これに対してどう思いますかというふうな話もありました。そして、あわせて道徳の時間に、ちょうど時間があるのかわかりませんが、ちょうどNHKの道徳関係のテレビ放送があったんですね。それを見ていました。多分半々ぐらいの割合だったと思います。道徳教育というのはやっぱりそうやって言葉で教える部分、こうやって何かがあります、何々君どう思いますかという言葉です。模範的な回答は返ってきますよね。でも本当にやっぱり心を打つのはテレビ、画像とか見て心を打つような形でやんなきゃいけないと思います。今現在

道徳教育に関して、テレビとかそういう画像とかが採用されているかどうか、ちょっと私は把握しておりません。若木では1回がばいばあちゃんのほうをちょっと見せていただいたということは聞いておりますけれども、今子供たちと一緒に笑顔で輪をつくりましょうというのをよく聞くんですけれども、私の個人的意見です。やっぱり涙ば流させんぎいかんですよ、感動させて。心を打つごたあ形でせんぎいかん。言葉でここはこうですと言っても、それはある程度いいと思いますけれども、やっぱりそういう画像とか、心を打つような、涙を流すような、心の機微に触れる、そういうふうなのをやらなきゃいけないと思います。

これは、何というんですか、知り合いだからとかなんとかは全然関係ないんですけれども、私テレビドラマというのを全く見ていなかったんですね、この数年、数十年、全く見ていなかったです。二十歳代に「男女7人秋物語」とあったけど、それから私ずうっと見ていなくて、その後に「1リットルの涙」というやつを見たんですが、その間見ていなかったんです。おっとりしゅう感動したですね。子供の前ばってん泣くわけですね。その後にがばいばあちゃんのプロデューサーが「1リットルの涙」をつくったというふうに聞きました。知っていて見たわけじゃないです。後で聞いた話です。心ば打つわけですね。一緒に涙ば流さんぎ心を打たんですよ、家族で、そして友達同士で。そのプロデューサーと話をしました。やっぱりその真意はそれだと、今日本がおかしくなっている、心を打たれるようなものをつくんなきゃいけないと。ですから、できればそういうのを道徳授業にぜひ取り入れていただきたい。

私はさっき言いましたけど、途中までテレビドラマを見ていなかったんですけど、最近見始めるようになったんですね、見れるときはですよ、家にいるときは。でも、やっぱり心を打つというのは少ないですけども、良質の番組、悪い番組とあると思います。やっぱり物すごく質のよい番組というのは心を打ちます。ぜひそういうのを道徳授業で取り入れていただけないのか、これをお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

道徳教育ですけども、参考までに、現在道徳の内容を4つに分けて考えております。1つは、自分自身に関することであります。過ちは素直に改めるとか、粘り強くやるとか、それから2番目に、ほかの人とのかかわりに関することでありまして、これも今非常に大事なことだと思っております。3番目に、自然や崇高なものとかかわりに関することで、これが先ほどおっしゃいました生命のとうとさとか、美しいものということになるかと思えます。それから4番目として、集団や社会とかかわり、父母や祖父母を敬愛し家族みんなで協力し合っなどというような内容が入ってくるわけではありますが、今お話にありましたように、道徳の授業、これが核になって心を豊かにしていこうとしているわけではありますが、それだけで足りないことははっきりしているわけでありまして、学校生活、家庭生活、地域

での生活の中に十分きっかけ、機会はあるかというふうに思っております。

確かに道徳の時間を大事に頑張っていきますけれども、この家庭、地域、学校連携をいいますときには、この心の面まで含めた連携というのが非常に大事じゃないかなというのを、先ほどから話がありますがばいばあちゃんのいろんなおばあちゃんの元気な姿を見ても、どれだけ心の面にも豊かなものが影響しているだろうというようなことも感じております。そういう面で、今触れられたのは道徳の授業の時間の内容に関してでありますけれども、これについては確かにいろんな工夫がなされております。なかなか涙を出すような授業というのはそう簡単にできないというふうに思います。めったに出会うこともありません。しかし、子供たちの心にかに触れるかという努力は、どの教師も精いっぱいやっているだろうというふうに思います。「五体不満足」の乙武さんの生き方とか、あるいは「電池が切れるまで 子ども病院からのメッセージ」とか、「飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ」とかいろんなテレビの教材、あるいはほかの教材等も用いて子供の心を耕そうと、豊かなものにと努力しているのが現状だと思っております。したがって、そういうビデオ教材等も十分に活用していきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

心の琴線に触れんざいかんと思うですね。子供たち、今心の琴線に触れるというのは少ないと思うんですよ。例えば、さっき言ったいろんな授業というのはなかなか琴線に触れるのは難しいと思う。例えば、がばいばあちゃんを見よって、昭広少年に弁当をやいよったと、先生たちはわからんごとしてやいよったと、そいぎおばあちゃんに言うたぎ、そいが本当の優しさたいと言うとき、どばーって涙の出っですもんね。あと、例えば「１リットルの涙」のときでも、一緒にクラスメートで助け合い、あいしていたときにやっぱり一部の生徒が何か反対したと云うぎんた、何やこんちきしょうと思うし、学校を離れていくときはやっぱり涙の、堤防の壊れて、どばーっと流すわけですよ。また、音楽がよかですもんね。そいけん、その辺でやっぱり心の琴線に触れるような教育をしていかなきゃいけないと思います。これはもう市長にもお伺いしたいと思っております。その面に関してはいかがでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

今、やっぱり私は本も大事かばってん映像もまた大事かと思っておりますね。「佐賀のがばいばあちゃん」も「１リットルの涙」も私は映像がよかったというふうに思っております。島田洋七さん済みません。そういう意味で、私はただあれはなぜ感動したかということは、恐らく「佐賀のがばいばあちゃん」でも「１リットルの涙」でも多分家庭で見たけんが、多分牟田議員の涙ば

見て娘さん感動しとんさって思うですよ。うちのパパの泣いたて、私はそういうふうにあの良質なドラマというのは、特に今家族をモチーフにしたものというのは、できることならば家庭で見てほしい、これが多分道德教育の一番大事なところかなというふうに思っております。

そういう意味で、我々は今後、「1リットルの涙」もそうでしたけれども、我々が教育委員会と相談していいドラマだと事前にわかった場合には、これからは周旋にもなります。いいドラマについてはもう盛んに教育的観点も含めて見てくださいと、家族みんなで見てくださいということを進めていきたい。そして、私は市長ですので教育の現場にどうこう言う立場じゃありませんけれども、できれば本とか先生の言うこともよかばってんが、映像もときには取り入れていただいて、映像の持つ力、特に「佐賀のがばいばあちゃん」は武雄が映ってわけですね。そういうことで、ぜひ取り入れていただきたいというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

先ほど言いました、ずうっとテレビドラマを見ていなかったんですけども、やっぱりそうやって見始めました。市長がおっしゃったお父さんの涙を見てと、子供の前やぎ恥ずかしかけんが、わからんごところするわけですね。でもやっぱり一緒に感動を共有する、同じ意味で心の琴線に触れていただく。そういう授業においても、クラスメート全員の心の機微を分かち合う、そういうふうな道德教育が必要だと思います。ぜひ御一考いただきたいと思えます。

教育関係いろいろ教育長に厳しく言いましたけども、子供の将来はやっぱり教育にかかっていると思えます。これから子供の将来のためにいい方向に導いていただくことを期待しまして、そして、できれば抽せんのところもちかっと言っていただければ幸いです。よろしく願いいたします。

では、続きまして周辺部対策。時間がなくなってきたんで、周辺部対策も1点のみ言いたいと思えます。

この後、多分、松尾議員も質問されると思うんですけども、限界集落という言葉、いろんなあります。若木町、私の地元の若木町も2,000人切って、この後ほとんどのところが限界集落に近づいていくと思えます。そういう中で、ぜひ取り入れていただきたい事業があります。これはもう質問というよりもお願い、提言でございます。

周辺部でなかなか人を寄せるとするのが難しいです。今、定住促進特区に指定していただいて、さらにいろんな事業をつけていただきました。これはもう大変ありがたいことで、今後それを利用していろんな方々がやっていただけたらと思えます。

これはさきの12月議会でもお願いしました。これは教育のほうともちょっと関係あるんですけども、食に関して、人集めという言葉はいけませんけども、定住を考えられないか、

その環境に合わせて。

私のうちはお店をやっていますので、家も古いです。うちの家、100年以上たっている古い家です。よくお客さんが来て、この家よかですって、いや古かけん大変ですよ、いえ、私実はシックハウス症候群で、こういうところだったら全然いいんですよとか、そういう方が割といらっしゃるんですね。もう1つ、前も、これは市民の方から数名連絡をいただいたんですけども、うちの子供が給食の何とかというアレルギーで、それに対応していただけないかというふうな要望を受けてお願いしたことがあります。そういうふうなことを調べると、武雄市の近辺、佐賀県、九州を見てみると、そういう方がネットで調べたらすぐ出ます。物すごい数いらっしゃるんですね。それに対応した給食をつくっている学校というのはほとんど、あるにはあります。九州の中にはほとんどありません。ところが、そこを調べたら、そこがそういう給食事業をやっているということで、転入者が物すごくいらっしゃるんですね、子供のためならと。

だから、これは本当に人集めのための材料という言葉は省いて、そういう人のためにもぜひモデル校で、1校でも2校でも構いません、武雄市全部でも構いません。そういうふうなアレルギー対応の給食が考えられないものか、これは1つはそういう方の人助け、左手では定住促進と、この2面があると思います。ぜひそれをお願いしたい質問ですけれども、この件に関してはいかがですか、どちらが答えられても構いません。

議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

浦郷教育長〔登壇〕

小学校の給食、アレルギー体質の子供たちの給食、これは年度初めあたりに保護者にアンケートとりまして、申し出てくださいというようなことをお尋ねするわけではありますが、確かに以前と比べますと、除去食というのが必要な子供たちがふえているというのはもう実際のところでございます。特にアレルギーの内容によりまして食品が違いますために非常に大変な作業になってくるわけですけれども、いずれにしても、お医者さんの診断に基づいてするわけですので、間違いが許されないこととして非常に大事な対応をしないとイケないということになってくるわけがあります。

そういう意味で、今お話がありましたように、食育への関心も非常に高まっております。やはり自然環境に恵まれた若木小とか武内小とか実際に日田天領水の利用を進めているという、計画を進めているというところでもありますけれども、あるいは地元の食材、これもどこの学校についても地産地消も進めていく必要もあろうかというふうに思います。あるいはこれまでも話題になっております食品添加物等の除去と、こういうことから、今おっしゃいましたアレルギー体質の子供への対応ということまで含めて取り組むことができないかなというふうに考えております。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私のほうから補足をいたします。

先ほど教育長より日田の天領水のお話が出ましたけれども、基本的に今のところ無償で一定期間提供していただくということになると思います。それを武内小、あるいは若木小でモデル的に活用したい。だから、新鮮でおいしくて安全な水ということで、どういうふうにそういうアレルギーとか、肌に病気を持っている子供がどう変わっていくかといったことも含めて実験的にやっていきたいというふうに考えております。

そういう意味で、先ほど教育長はこういうことはできないかということをお話しされましたけど、ぜひやってほしいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ある意味、周辺部対策の1つの切り札となるやもしれません。これは手間がかかるということで予算も少々かかるかもしれません。でも、それ以上の効果があると思います。この市役所、食育という新しい課もできました。ぜひその辺で取り組んでいただきたい、教育委員会も含めてですね、と思っております。

その予算に関しては、今、頑張る地方の応援プログラムという政府の特定資金があります。上限30,000千円までですけれども、ここでこの次の質問につながるわけですね。

頑張る地方応援プログラムという中で30,000千円までの上限が出ている。こういう中で、いろんな事業を地域から出せるようになりました。今までは地方が頑張った、これだけ頑張りましたとすると、これだけ頑張ったら、例えば、行革してこれだけ経費を少のうしましたら、今度は反対に交付税まで減らされるわけですね。だから、そういうふうなシステムだったんですけれども、今度は頑張る地方応援プログラムというのは、交付税に上乘せして上げますという、私に言わせればちょっと画期的な部分だと思います。

これを考えられたといいますか、これを応援していただいた渡辺喜美さん、今副大臣ですね。先日車の中で1時間ほど話させていただいたんですけれども、やっぱり地方は頑張れよんさっと、日本が頑張るためには地方が頑張らんざいかん。地方が頑張るためには、やっぱりそういうふうに頑張った地方はビールの1杯でもやらんざいかんと、そういう趣旨でやる。ただし、頑張らない地方は今までどおりですよというふうなことをおっしゃっていました。それで、この頑張る地方応援プログラムというのができたと思います。多分締め切りは今月の20日だったと思います。1次締め切りがですね。2次募集がまた始まると思います。

ここでもう次の質問のほうに移りますけれども、頑張る地方応援プログラムに今武雄市は

どのような、何というんですか、計画を出されているのか、これをお伺いしたいのと、もう1つは、その中にもし入っていなければ先ほどの食育の部分、アレルギー対応モデル校を入れていただきたい。これをお伺いしたいと思います。今現在どのようなやつをやっているか。もしできればそちのほうを入れていただけないか、これをお伺いしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

末次企画部長

末次企画部長〔登壇〕

頑張る地方応援プログラムにつきましては、今議員が述べられたとおりでございます、総務省が取り組んでおります頑張る地方応援プログラムについては先月末をもって期限として……

〔25番「先月末やったか」〕

今年度の第1次募集が行われたところでございます。

この第1次募集につきましては、武雄市から4つのプロジェクトを応募しております。応募したプロジェクトにつきましては、1番目に、武雄ブランド化プロジェクト、それと武雄市定住プロジェクト、3番目に、企業立地促進プロジェクト、4番目に地域経営改善プロジェクトというふうになっております。

なお、頑張る地方応援プログラムでは、各自治体でのプロジェクトの取り組みに要する経費に対しまして単年度で30,000千円を限度といたしまして、特別交付税で措置をされるということになっております。第1次募集に応募いたしました4つのプロジェクトの今年度の事業費につきましては、総額で36,669千円というふうになっております。また、今年度の第2次募集につきましては、8月から9月ごろに行われることというふうになっております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

先ほどの頑張る小学校給食、あるいは食育の学校モデル校小学校は実は私も検討したところであります。しかし、これは頑張る地方というのはどちらかというと、今まで市が継続的にじゃなくて、単発ものですよね、というのに頑張るといった側面が非常に強くて、実はちょっとこれにのせるとどこまで続くのかとようわからん部分があります。したがって、これはもしやるとするならば、文部科学省の小規模特認学校の制度がありますので、そちらのほうに教育的観点から、頑張る地方でなくて、のせたほうがいいのかなどというふうで今のところ考えております。全国にいろんな事例がありますので、補助金は大幅少なくなります、総務省と比べれば、しかし、制度の安定的運用を考えたときにはそちらのほうがいいかなと考えておりますので、いずれにしても、補助金をどこから調達するように私自身も頑張っ

いきたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

25番牟田議員

25番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今市長から御答弁、もうそれはやっていただけるんなら、そして、市の財政に大きな影響を与えないなら、ぜひそういうやつをやっていただきたいと思います。

ただ、ちょっと個人的にですね、頑張る地方のほうが予算的にはいいかと思いましたがけれども、その継続性までちょっと考えておりませんでしたので、これは平成23年まで続くというふうな。

先ほど上限30,000千円までということだったんですけれども、これは予算が3,000億円ついています。3,000億円ついている中の500億円が上限30,000千円までですね。その他の事業の用途に応じて残りの2兆5,000億円を配付すると、交付税に上乗せするという事業だと思っています。

武雄は4つの事業総額36,660千円ということを出されていますけれども、よそはですね、私調べました、45カ所ぐらい調べました。ほとんど1億円超えていますね、提出されているのが。一番多いのは、総事業費二十何億というのがありました。それはもう上限30,000千円までですけれども、そのあとの残りの2兆5,000億円の交付税措置で少しでもプラスできるような形でできるかということやっていらっしゃると思います。

例えば、熊本の彦なんとかで、ちょっと忘れちゃったけれども、そことか2億円ぐらいの計画を出されているわけですね。ほかの町でも億以上出されています。市になると10億円近く出されている。小さい村でも何億出されています。ぜひこういう形で利用していただきたいと思います。

ちょっと終わりになりますけれども、周辺部対策に関してはそういうことで、食というのは大きな切り札になると思いますので、ぜひ取り入れてやっていただきたい。そして、繰り返しになりますけれども、最初の観光の面に関してはぜひ実数を把握して事業の見直し、そして、教育に関しましてはきちんと教育委員会にかける、そして、2学期制だけじゃなく、抽せん制度も保護者に投げかける、そして、それを集めて教育委員会で話していただく、それを教育長が県に持って行っていただくと、お伺い立てるというふうな形でやっていただきたいと思います。

ちょっと長くなりましたけれども、以上お願いいたしまして、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。